

## 黒貝戸遺跡 第41地点

遺跡名	黒貝戸遺跡
よみがな	くろかいといせき
調査地点	第41地点
主な時代	縄文時代前期(約5500年前)、平安時代
調査地	富士見市諏訪1丁目1713-3、1714-6
調査面積	1239.41 m <sup>2</sup>
調査期間	平成30年5月15日～5月28日
調査内容	<p><b>【確認された主な遺構】</b> 縄文時代の貝塚1基、 平安時代の竪穴住居跡1軒</p> <p><b>【出土した主な遺物】</b> 平安時代の須恵器坏、土師器甕</p> <p><b>【概要】</b></p> <p>黒貝戸遺跡は、南西側に権平川を臨んだ武蔵野台地縁辺部に立地しています。これまでの調査により、旧石器時代や縄文時代前期、奈良・平安時代を中心とした複合遺跡であることが明らかとなっています。縄文時代前期では、貝塚を伴った竪穴住居跡が検出されており、奈良・平安時代では鍛冶遺構を含め多数の住居跡が確認されています。</p> <p>本地点の調査では、縄文時代前期の風倒木跡に貝殻を廃棄した貝塚1基、平安時代の竪穴住居跡1軒などが確認されました。</p> <p>この貝塚の検出により、本地点の周辺に必ず当該期の住居跡が存在すると考えられますので、今後の調査が期待されます。</p>



縄文時代前期の貝塚



堆積した貝殻



平安時代の竪穴住居跡



住居跡カマドから出土した土器